



「ヤッホー
とれたぞ。とれたぞ。」

土の中からこそこそ顔を出す。
何ともごつい。
何とも あたたかい いもたち。
出てくる。出てくる。……

「おい。見てくれ。
ぼくらが作った いもだぞ。」

畑の中、喚声が響きわたり
子供たちの表情は光り輝く。

初夏の太陽と大地が
今。

土まみれの子供たちと
バケツに山と積み上げられた
じゃがいもを祝福する

昭和55年7月1日
編集／発行
岡崎市教育委員会



(じゃがいも堀り—福岡小)

今私の手許に一つの少年輔導の記録がある。主役はA君、十二才になる小学六年生の男の子である。

このA君、とある日、市内のデパートで時価八千余円の玩具を万引して輔導された。その動機は単純で、夢にまで見たラジオコンカーを買ってもらえなかった。といったものであった。

最近の少年非行の傾向を見ると、終戦直後の物資欠乏時代に少年期を送った父

—教育随想—

書きき抜き日記輔導

—A君の場合—

朗 卓 野 牧



母が、自分の育った環境、いつ死ぬか判らない。食うや食わず。着のみ着のまま」といったことを高度経済成長の中でいつのまにか忘却し、己が満たされなかった反発から、少年期を迎えた二世にいたずらに物を与えることにより満足し、子供が欲しがる前に先にと子供の物的欲求を満たし、あるいは気げんをとっては勉強させるといった甘やかし、過保護が非行化への大きな要因となっており、ま

た非行の一般化をはやめている。こうして成長した子供は忍耐力と自律心に欠け、欲求不満をがまんし、コントロールする力や困難を乗り越えるたくましさのないひ弱な少年となる。

A君の場合、彼の幼い頃両親が離婚し彼は母親の許で姉妹三人とともに育てられてきた。しかし過去に非行歴や輔導歴は全くない。学校の成績は良い方ではないとしても真面目に通学していた。

昨年暮、母親は祖母の看病のため九州の実家に帰省し、ここ数か月は中三の姉が母親がわりで、炊事、洗濯一切の家のきりもりをしている。母親はしばしば電話で「くらし」について詳細に指示していたという。そういえば、A君の身なりもこざっぱりとしており、ほころびも、ボタンの脱落と一つもなかった。これも母親の「要望」によくこたえた姉の必死な弟妹への思いやりであろう。

しかし、よく云われるように「しつけは幼児期に」が家庭教育、しつけの根本であるはずである。家に帰り、楽しかったこと、悲しかったことを昨日も今日も語る親のないせつなきの中で、A君の心に幼児期、心に受けた傷あとがふとよみがえったのではないだろうか。

A君の場合には、幸いにも教育熱心な担任教師(独身の若い女性と聞いている)による親身も及ばぬ指導によって、今日では暗い影もなく元気に通学している。聞く。おそらくA君は、この担任教師に、一つの「母の愛」を感じて立ち直ったのではないだろうか。この事例を見るにつけ、家庭、学校、社会(警察)の三位一体の教育(輔導を含めた。)の重要性を痛感する。家庭の暖かい愛情も知らず放任され、学校をはみ出し、社会でつまはじきされる少年の行きつくところは?。家庭は学校が、学校は家庭が、社会は家庭が、というような責任転嫁では解決でき得ない問題である。学校には学校の、社会には社会の一定の「枠」があり、前述の担任教師はあるいはこの枠外の活動をしたのかも知れない。しかし、現在の社会が一番求めている「教師像」とは、勿論事に当たって毅然たる態度で臨む強さも必要であるが、このような優しい人間味のある姿ではないだろうか。とはいっても成長過程にある子供にとって最も大切であり、必要なものは「暖かい家庭」であることはいままでもないところである。(岡崎警察署長)

海外こぼれ話



西ドイツの教育事情

高木良和

愛教組ヨーロッパ教育事情視察団の一員とともにミュンヘンで、バイエルン教職員組合(約四万五千人)の役員ブーデル氏と懇談する機会を得た。

最初に、教員資格取得の厳しさに驚いた。大学卒業後国家試験にパスすると、学校現場での三年にわたる訓練期間がある。その後、再度の国家試験を通過して、はじめてひとりだちできる。三年後の初任給は、約二千五百マルク(約二十五万円)が支給される。

定年は六十五歳。しかし、男六十二歳女六十歳で、希望すれば三千五百マルクの退職金をもらって身をひくことができ。二十八年以上勤続すると、退職時の給料の七十五%が毎月支給される。

学級定員は三十人から三十五人。現在では二十五人をめざしている。週担当時間は平均十八時間。午前中授業だから、「給食指導」はない。校長も組合員である。最近では女性の進出がめざましく、約八十%をしめている。



—ふるさとの山河—

早川

早川は岡崎市中心街の西方、矢作川・乙川・伊賀川・青木川に囲まれた狭長な低地を流れる。矢作川左岸の上里神社付近を源として南下し、ユニチカの東を経、岡多線の高架下を通り、八帖地内で、乙川に注ぐ延長約三キロの河川である。

矢作川の伏流水を水源として流路ができたが、たびたび水害に悩まされた流域の人々の土地提供と労力奉仕により排水路として、改良・改修された。現在は矢作川の水位が低下し、湧水も少なくなつたため、源流は主として生活排水である。

松原橋東詰めに耕地整理記念碑が建っている。その碑文の初めに「岡崎市能見西方ノ地元低窪雨至レハ輒チ漲溢シ堤防又決壊シテ濁流侵入シ殺為メニ實ラサルコト毎歳人々憂苦ス……」とある。この地域は湛水の被害に苦しんでいた。大正四年、耕地整理が完成、美田に生まれかわった。しかし、豪雨時には高台の水がここに集まり、早川からの自然排水は、矢作川水位が高くなって不能となるため

湛水の被害をしばしば受け続けてきた。そこで、昭和十七年、県営早川沿岸排水事業によって最下流部にポンプ二台を設置、乙川へ強制排水できるようにした。その後、三河地震により地域内の地盤沈下が著しく、さらに二台新設された。これが、八帖ポンプ場である。それ以来、この付近の水田や沼が遊水池の役割りを果たしていることもあり被害は減少した。

ところが、二四八号線開通の頃より、都市化が進み、それらが埋め立てられたため、降雨時に一挙に排水能力以上の水が押し寄せ、排水状況が悪化した。集中豪雨の際には、農地や住宅が冠水・浸水の被害を受け、その区域も拡大してきた。

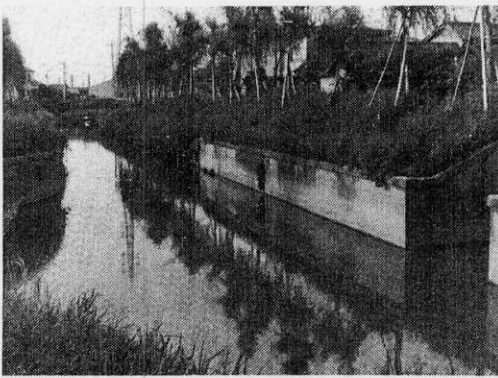
そのため、昭和三十八年、早川湛水防除事業に着手した。矢作橋上流四百メートルの矢作川左岸に排水機場を新設、早川から長さ百八十三メートルの導水路で結んだ。昭和四十年、この早川ポンプ場の完成で直接矢作川へ排水可能となった。しかし、日名橋以北の浸水常習地区で

は依然として、雨水が集中し、農作物に被害が出たり、二四八号線が冠水して通行止めになったりした。このため、早川へ流れ込む雨水を矢作川へ分散・放流できるように犬門ポンプ場を新設、本年六月より稼動可能となった。

早川は、このように排水路的性格が強いが、ユニチカ東門付近の右岸を気をつけて観察すると、取水口のあることに気づく。工場敷地内のポンプで日名地内の耕地に水を送り込んでいる。地区民は当番で、毎日、取水口のごみ除去にあたっている。

下流部では、河川上に岡多線路線と中岡崎駅が建設されている。中心街での鉄道用地確保が困難の折、早川がその役割りを果たしている。

(城北中 水谷 達彦)



国による制度、考え方の違いがあるものの、青少年の非行問題、子どもの自然減等共通した問題も多くあった。

(岡崎小)

あとのまつり

深津 佳子

ハブニング続きのアメリカ西海岸の旅。特にUCLAでのひとときは傑作。

グラントキャニオンツアーのセスナに偶然乗りあわせた高浜の大学生から、サントモニカ行きのバスの乗り方を教えてもらい勇んで私たちは出かけたのだが、同じ番号の系統違いのバスに乗ったらしく、終点がUCLAの前。降りる時に乗りかえ券をもらって、休憩する為にUCLA構内へ。一番手近な建物に入るとそこが食堂らしくみんなセルフサービスでやっている。私たちのどのかわきにはかかず、食べている人たちを「さすがUCLAね。賢そうな人ばかり」と横目で見ながら奥のショーケースの前に到着。見るもの手当り次第と、トレイの上は花ざかり。最後に水をグラスを持ち並んでいると、おじさんが来て「○△×□//?」何か答えねばとこちらも女四人で一生懸命の会話? 身分証明が無いと入れない所ようだったが、代金を払うことで一件落着。楽しいひとときを過ごした。が、そこが教職員センターだったとは日本に帰つてからのあとのまつりの語りぐさ……。

(大樹寺小)

22 和ろうそく

岡崎再見



全国でも数少なくなった「和ろうそく」の製造工程を取材しようと、編集部は八幡町にある磯部ローソク店をたずねた。ここは全国にも十軒ほどしか残っていない、和ろうそくの手作りを行っている店である。

今日ふつうにろうそくといえば、パラフィンから作られる西洋ろうそくが普通になり、日本古来のろうそくは、「和ろうそく」と呼ばれるようになった。

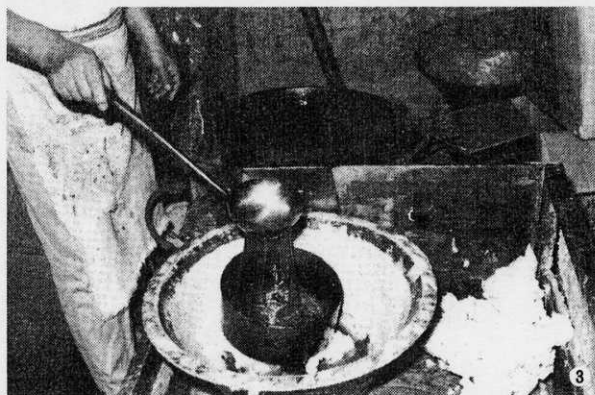
ろうそくの材料の「和ろう」は、ハゼの実から作られ、九州、四国の特産になっている。秋にとった実を、むしてしばったものが「新実ろう」といって、あくが多く黒い色をしている。実のまま一年越したものをからしばったものが「古実ろう」で、色は白くなり一箱に



三〇kgつめて取引されている。

磯部ローソク店は、ろうそく屋として現在の磯部孟位氏で七代目、江戸時代から三角屋敷のろうそく屋として有名であった。江戸時代の記録として、「岡崎城へ百匁ろうそく百丁献上、酒一斗下賜さる」といった文書もあったが、戦災で失われてしまった由である。また磯部家の前の道は旧東海道で街道を行く馬車・牛車が、掃りの夜道に備えてここでもろうそくを求めて行ったものだそう。

現在ろうそくの種類は、「小丸」といわれる五分、六分、八分のものから、一匁を一号として、最も大きいものは五百号まで作られている。販路は三河地方の寺院が多く、冬から春にかけてよく出るとの事だった。

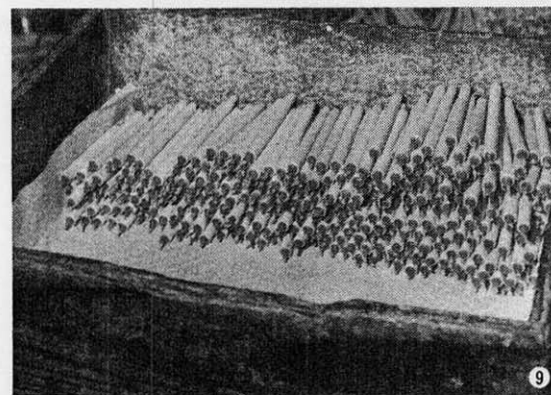


① 芯を作る。棒に和紙をかぶせて、その上から燈心を巻く。燈心も少なくなり、小丸などには木綿を使う場合もある。

② 竹ぐしに芯をさす。この先一センチくらいになたね油をつけ、ろうをつける。

③ とかしたろうを、すいのでこしながらすりばちに入れる。温度を調整するため、かたまつたろうも入れる。

④ 一メートル余もあるすりこぎで



ろうすり。全体がなめらかになるまで、三〇分以上も。主人しかやれない仕事とか。

⑤まきがけ。とけたろうにひたしたもみつけの上に、手につけたろうを、くしをまわしながら均一につける。

⑥頭切り。まきがけをして、でき上ったろうそくの芯を、あたためた片刃の包丁を使って切り出す。

⑦ぬき。頭切りしたろうそ

くを、竹ぐしから抜きとる。少しゆるめておいたものを二十本ぐらいまとめて抜く。

⑧しり切り。頭切りしたものを抜いて、長さをそろえて、あたためておいた包丁で切る。芯をつぶさないよう注意。

⑨完成品。上から見るとろうがバームクーヘンのように同心円に見える。手作りの証拠。太さもそろっている。



教育日々



生きた歌声を求めて

矢北小 高木恵美子

私は、毎朝教室に入ると、はじめに歌うことにしている。からだをゆらし、大声をはりあげ、子どもたちの手をとって歌う。

A子の表情が、クラスの中でもひとときわ輝いて見えた。

「A子ちゃんの目は、とつても大きくて、キラキラしていたよ。みんなA子ちゃんの方を向いて歌ってごらん。」

A子は、もう得意顔で、さつきよりもっと大きな目をして歌い出した。A子は、国語や算数はけっして得意ではない。しかし、歌うということでは、他の子には負けないという自信を持っている。それがA子の歌う表情にはつきりと出ている。

他の子どもたちも、A子に負



けまいといっしょうけんめいだ。小さなからだを大きくゆらして歌っている。それは、けっして美しい声といえるものではない。しかし、こんな朝の歌声に心がなごむ。

K男は、とても理屈っぽく、初めのうちはいつもしかめつらをして歌っていた。歌うことがきらいだというような顔つきでもあった。そんなK男でも、みんなといつもいっしょに歌い、友だちから励まされていくうちに、歌う表情もしだいに明るくなってきた。作文の時間に、こんな文を書いてくれた。

二の三では、朝の会や音楽のとき、いつもからだを

ゆすって歌います。ぼくは、歌っている時、からだをゆすって歌うと気持ちがいいです。そして歌っている歌のことが思いうかべれます。なにか、ほんもののうたという気がしてきます。

私の学級では、友だちの表情に目を向け、歌い終わると、よいところをほめ、励まし合うことをくりかえし行っている。子どもたちにとって、ほんの小さなことでも、みんなが自分を認めてくれた時ほどうれしいことはない。歌がじょうずに歌えることよりも、明るい生きた表情で歌える子が、少しでも多くなつてほしいと願っている。

生まれ変わる

城北中 藤井孝弘

「今日は、何から何までだめな日だった。特に、弁当を忘れたり、ノートを忘れたりしたのが目立った。最近どうもこのようミスが多い。生活に乱れがあるのだろうか。」

これは、O君の最近の様子を端的に表した生活ノートの一部である。

四月から初めて私が受け持つことになったO君。「初歩的な忘れ物が多い。」「どうも集中力不足だなあ。」「……という、O君についての各教科担任からの連絡も、最近よく耳にする。

その後、本人に注意してきたが、現在のところ大きな変化は見られない。家の人にも最近のO君の様子について連絡した。

ある日曜日、O君の生活ノートを讀んだ母親は、「力が抜け、仏様の前で涙を流しました。」という。「その日の午後、めずらしく母と二人で買い物に行くことになった。その途中、歩きながら母から今の生活のくずれを注意された。普段、注意されるとうるさく感じるが、今日はずが心に響いた。」とO君は自分を見直そうとしてきた。

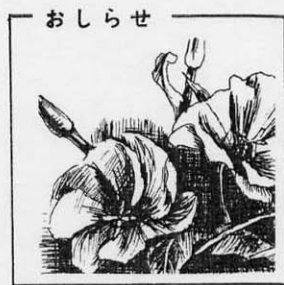
それから、三日後に修学旅行の班を決める日が出てきた。まず、男子の班長候補として四人の名前が出された。その中にO君の名前もあった。次に三人に絞る段階になったとき、K君から、「生活委員であるO君は、最近調子がおかしいので、この際、責任ある班長になってもらい、この旅行を通して、立ち直ってもらいたいと思います。」「どうですか」「賛成。」「賛成。」

すかさず、盛大な拍手の音がクラスに湧き起こった。かくして、「三班、班長O君」が誕生した。当の本人には、とまどいの中にもみんなの声援をバックに決意のまなざしが見られた。

あと二日後に迫った東京、日光への三日間の修学旅行が例年になく楽しみである。これは、私だけでなく、クラスのみんなも同感であろう。

人間の身体的成長は一朝一夕では見ることができない。しかし、人間の精神の飛躍は可能である。自分を見直すきっかけを、級友から信頼を取りもどすチャンスを与えてもらったO君。彼の精神の大飛躍を祈りたい。





おしらせ

教育資料を計画的に収集

新たに特別委を設置

各学校、現職教育委員会各部、市教委等で刊行される書物・パンフレット類は、貴重なものが多いにもかかわらず、数年もすると散在してしまふのが現実である。

なお、収集した資料は当面、東海中学校で保管することになっている。

こうした教育資料を計画的に収集・保管するための業務を担当する「教育資料収集整理委員会」(委員長・小林 績東海中長)が新たに発足した。この委員会は、各教科、領域からの代表二十八名から構成されており、去る六月十日に初会合が開かれた。

■多年勤続表彰の先生方の紹介
市内の学校に多年勤続(25年以上)の教育職員として七月一日の市制記念日に表彰を受ける方々は次の通り。

- 【小学校】▽男川 柴田翠▽羽根 佐々木昭夫・中山吉明▽三島 吉田とも子▽竜美丘 近藤和夫▽広幡 柴田正寿▽愛宕 香村清子(退職)▽福岡 大久保安二▽藤川 田中愛子▽細川 鈴木義道▽大門 中川朗子▽六南 中川平八郎 牧野弘子(退職)

今後、この委員会の手で、研究誌・文集・写真集・資料集はもちろん、児童・生徒のノートに至るまで広く教育資料を収集する予定である。先生方のご協力をお願いしたい。

- 【中学校】▽中山 鈴木健三▽美川 成瀬保治・近藤豊▽葵 太田泰永▽東海 平岩基・山田中庸・柴田誠▽香山 石田厚徳

【寄贈刊物・資料等】
◇続・みどりはもえて 緑丘小学校
創設以来五年の歩みを力強い筆の運びで綴る。A5版、三三頁

◇陽光 鈴木秋人・鈴江 鈴木及里子遺稿詩集・B6版 二二九頁

◇文集・やまなか 11号、山中小学校、変形B4版、コピント印刷一三七頁
◇教育要覧 昭和54年度版 岡崎市教育委員会、B5版、五二頁

◇岡統研 現職教育統計教育部 54年度の実践集録、ガリ版印刷
磯谷栄一▽岩津 神谷高明

【市教委】宇佐美利郎
昭和55年度 岡崎市教育研究論文の募集要項

趣旨
市内幼小中学校(園)の教職員の日ごろの実践と研究の成果を広く募り、学校教育の健全な発展をはかるとともに、その努力を顕彰しようとするものである。

- 二、部門
(1)個人研究 (2)共同研究
三、字数
四〇〇字原稿用紙(B4・たて、よこは自由)三〇枚以内
表・グラフは本文字数に含む
- 四、提出
提出期限 十二月一日(土)
提出先は市教委学校教育課。
- 五、表彰
・教育委員会賞
・努力賞

第24回岡崎市中学校総合体育大会の記録 (昭和55年5月18日)

種目	会場	優勝	2位	3位
陸上競技 男	岡崎公園グラウンド	矢作	葵	東海
陸上競技 女	岡崎公園グラウンド	矢作	岩津	美川
軟式野球 男	岡崎公園コート	甲山	河合	六ッ美・附属
軟式野球 女	岡崎公園コート	六ッ美	矢作	南・東海
卓球 男	岡崎市体育館	河合	岩津	南・東海
卓球 女	岡崎市体育館	東海	六ッ美	矢作・南
体操競技 男	竜海中学校	葵	竜海	甲山
体操競技 女	竜海中学校	葵	矢作	海
バレーボール 男	竜海中学校	矢作	竜海	甲山・美川
バレーボール 女	竜海中学校	竜海	矢作	葵・東海
剣道 男	南中学校	矢作	六ッ美	福岡・甲山
剣道 女	南中学校	福岡	甲山	岩津
ハンドボール 男	葵中学校	六ッ美	城北	葵・岩津
ハンドボール 女	葵中学校	美川	六ッ美	葵・岩津
柔道 男	岡崎市体育館	美川	竜海	
ソフトボール 女	甲山中学校	岩津	甲山	矢作・葵
軟式野球 男	南・城北中学校	岩北	竜海	福岡・岩津
バスケットボール 男	附属・城北中学校	美川	葵	南・城北
バスケットボール 女	城北中学校	甲山	附属	葵・六ッ美
水泳競技 男	葵中学校	甲山	矢作	葵
水泳競技 女	葵中学校	甲山	矢作	葵

●個人成績(陸上競技)

種目(男子)	記録	氏名	校名	種目(女子)	記録	氏名	校名
100M	11'9	中野 晋作	美川	100M	13'3	太田まゆ美	美川
1年 100M	12'8	杉浦 政人	附属	1年 100M	13'6	増田 純子	美川
100M	56'4	栗野 正巳	矢作	200M	2'36'4	田村 京子	甲山
800M	2'16'6	大迫 文明	福岡	800M	2'36'5	陣谷千佳子	東海
1・2年 1500M	4'40'2	紀平 高之	矢作				
3000M	9'51'0	神尾 浩者	矢作				
100M H	14'2	大沼 毅	矢作	100M H	17'0	杉浦 教子	城北
800M R	1'42'4	荒木 三治(大宮・東野)	葵	400M R	55'1	岩津 (岩川・山下)	岩津
既学年 400M R	52'1	矢作 (尾崎・野場)	葵	既学年 400M R	55'2	美川 (太田・増田)	美川
走幅跳	6 m 03	鈴木 和宏	矢作	走幅跳	4 m 91	鳥山 久美	矢作
走高跳	1 m 75	今井 友規	東海	走高跳	1 m 50	市川 信子	岩津
鉛丸投	14 m 45	梅田 厚史	東海	鉛丸投	11 m 44	近藤 康子	六ッ美

●体操競技

種目(男子)	氏名	校名	種目(女子)	氏名	校名
器械総合	葵	葵	器械総合	南	南
団体体操	葵	葵	団体体操	南	南
個人総合	福住 勇	葵	個人総合	宮本 佳代子	南
床	鳥居 行雄	竜海	床	平澤 美穂	南
鉄棒	福住 勇	葵	平均台	大河 原恵	甲山
跳箱	平田 祐司	竜海	跳箱	宮本 佳代子	南

●柔道

1位	2位	3位			
氏名	校名	氏名	校名	氏名	校名
宮地 洋一	美川	岩木 泰友	竜海	石大 原高	葵
				和原 高	葵
				大広 美	葵
				川田 用	葵

板屋町常夜燈



所在地 岡崎市板屋町

板屋町は、かつての花街の面影なく、ひっそりと静まり返っている。往時は市内で最も多忙な詰所の一つであった板屋派出所も、今は廃屋である。

この派出所の隣、今は板屋公民館になっている稲荷神社の境内に、一風変わった形の常夜燈が建っている。寛政九年巳十一月建立、願主板屋町とある。

岡崎市史によると、両町の常夜燈に次いで、市内では古いものだろうな。

ところで、この常夜燈は、もともとここにあったものではない。旧東海道が、松葉の総門をくぐりぬけ、板屋町で左に折れ

る、その辻に、昔、小さな尼寺があり、地蔵様を祀っていた。このお寺の敷地内に、秋葉さんの小さな祠とともにこの常夜燈が建っていた。

この燈籠に毎夜火を入れるのは、最年少の尼さんの仕事だったそう。この尼寺は昭和十年に竹千代橋の下に移転した。今の地藏堂である。庵主さんが昔を懐しんで話してくれた。

昭和三十八年、地主が家を増改築するため、この一角をこわし、石組の石を始末したため、昔を偲ぶ町の有志の方々が、新しい燈籠をとりつけて、今の場所に復元したという。

●カット 男川小 山口泰代

この本を

- | | |
|-------------------------------|---------------------------|
| ○たくあん石の悟り
山手書房 | 勝平 宗徹
¥ 950 |
| ○知的人生の生き方
講談社 | 渡部 昇一
¥ 1,000 |
| ○もうひとつの学校
講談社 | 森 村 桂
¥ 790 |
| ○天下大乱を行くイラン・アラブ1979~80
集英社 | 小田 実
¥ 980 |
| ○回想太宰治
新潮社 | 野原 一夫
¥ 800 |
| ○ことばの姿
芸術新聞社 | 外山滋比古
¥ 900 |
| ○メキシコからの手紙
岩波書店 | 黒沼ユリ子
¥ 320 |
| ○ものぐさ数学のすすめ
青土社 | 森 毅
¥ 1,200 |
| ○ことばの歳時記
文芸春秋社 | 山本 健吉
¥ 1,000 |
| ○長安から河西回廊へ
日本放送出版協会 | 陳 舜臣
NHK取材班
¥ 1,500 |

温室物、ハウス物でなくて、露地物の野菜、果物の味を楽しめる季節になった。果物も自然にいろんなんどもは香りもあり甘味も多いし、その上値も安い。

季節に季節のものを食べてこそ自然と共に生きるものの姿であろう。夏バテしないよう、今日はうなぎのかば焼といくか。おっとこれは養殖物だが。

静かに、ひっそりと、合歡の花が咲いている。おや、こんなところに……

見られることがまれな花である。金の油を身に浴びる。ひまわりも、真夏にふさわしい。昔と比べて、せみの声は少なくなつたが、じりじりと照りつける暑さだけは変わらぬ夏が来た。

オアシス

雨あいの、雲の切れ間に、七夕の星をさがしてみた。

七夕は近いというのに、宵空に牽牛、織女の星は見あたらない。星座盤によれば、天の川はまだ東の空に低いとある。七夕の笹も、まだたけのこ、旧暦の行舟を新暦でするからややこしい。お星さまぬきの星祭りなんて、やだな。

すっかり梅雨も上がって、真夏の太陽が照りつける。

チョークを、メガホンに持ちかえてプール指導に汗を流す。夏休みだというのに、せっせとプールに通ってくる元気な子どもたち、わたしも、彼らに負けないうらい黒い体と顔。ことしこそ、海で焼こうと思ったのに。